

第1回文京区アカデミー推進協議会

日時：平成25年10月16日（水）

午後6：30～8：30

場所：文京シビックセンター24階

区議会第1委員会室

文京区アカデミー推進部アカデミー推進課

第1回 文京区アカデミー推進協議会 会議録

(敬称略)

「委員」

会長 水越 伸
副会長 久松 佳彰
委員 青木 和浩
委員 野口 洋平
委員 柳澤 愈
委員 佃 吉一
委員 小林 博
委員 枝川 千波
委員 中村 成一
委員 野村 宣子
委員 東田 英輔
委員 小野澤 勝美

「事務局」

アカデミー推進部アカデミー推進課長 山崎 克己
アカデミー推進部観光・国際担当課長 工藤 真紀
アカデミー推進部スポーツ振興課長 古矢 昭夫

※以下、「協議会」「推進計画」とは、それぞれ「文京区アカデミー推進協議会」「文京区アカデミー推進計画」のことをいう。

○事務局：出欠状況の確認。

○会長：開会のあいさつ。

(委員名簿順に自己紹介)

○事務局：区職員紹介。

(観光・国際担当課長、スポーツ振興課長、アカデミー推進課長、事務局職員3名の順に自己紹介)

○事務局：協議会の要綱・運営について説明、確認する。

○会長：協議会についての確認。この協議会の所掌は、設置要綱第2条に基づくもの。

昨年度の評価方法については、いくつか反省点があった。「協議会の開催時期について検討すること。」「資料だけでは事業内容が具体的に見えづらい。」「どこがポイントなのか分か

らない。」等。実際の現場のものを、200字～300字にまとめてしまうと、かなり抽象化されてしまう。昨年度は、委員の「生（なま）」の意見を載せて欲しいとお願いした。

今回は、第一回協議会の前に、学経委員4人がディスカッションを行った。そこで、「アカデミー推進計画」の指針に乗っ取って評価すべきだという考えで一致した。また、区では、年間1000事業ほどの事業があり、そのうち250事業ほどが、基本構想実施計画に盛り込まれた事業であり、そのうち、アカデミー推進部関連事業は、25事業ほどある。それらは、区の行政評価の仕組みの中でフォーマットを持ち、評価されている。そのフォーマットを活かせないかという話になった。

予算等の制限から、「何回かの会議で評価する」意味から行くと、昨年と大きく変わらないが、区の既存の評価資料を活用しどのような会議にするか議論する必要がある。

○事務局：【資料1】が評価表になる。推進計画の分野別の目標ごとに評価表を作成した。評価表の形式は、2案ある。1案目の方がシンプルになる。2案目は、実施状況からいくつか事業を抜粋している。（基本構想・実施計画（事務事業評価）との関連について説明）今回の評価については、事務事業評価と推進計画の実施状況を参照して行う。

○会長：個別計画というのは各部署で作成するのか。

○委員：そのとおりです。

○会長：実施計画というのは個別計画からいくつかピックアップして編成されるのか。

○委員：推進計画と実施計画は策定時期に違いがある。個別計画の事業を実施計画に載せることで予算が担保されるので、実施計画に載せていきたい。個別計画というのは、ある種のビジョンと言える。

○会長：我々のチェックというのは、何を実施計画に載せていくのかというお話になるのか。

○委員：来年度以降は、推進協議会の開催時期をずらすことで、そのような作業も可能。

○会長：どのような事業に予算を担保して実施していくのか、ということに対して、我々の評価が一定のインパクトを持ちうるということ。それでは、案を説明してください。

○事務局：1番目の案の方が比較的わかりやすい。また、今年度は、生涯学習・文化芸術・スポーツと観光・国際交流の2つに分かれる分科会形式で実施したい。

○会長：場合によっては、両方に出席していただいても構わない。大まかなスケジュールは、次回（2回目）は分科会、3回目に全体会、ということでいかがでしょうか。

○（一同、了承する。）

○副会長：我々のなそうとしていることは、推進計画と実施計画の整合性の担保である。

○会長：庁内の評価では、数値指標を採用している。我々は、数値だけにならない部分もありうる、ということをお案しながらやっていくのが良いだろう。

○会長：実施計画と推進計画との互いの関連はどうなっているのか。

○事務局：互いを位置づけ合った表を事務局で作成した。協議会の中で、互いの位置づけについて修正があれば検討していきたい。

- 会長：分かりやすい区分けがあるのが一般的かと思うがいかがか。
- 委員：昨年度の評価では、「ある程度評価できる」等のあいまいな表現が多かった。今年度、具体的な数値に基づいてというのであれば、2案の方が良いかと思うが、わかりやすさでは、1案の方が良い。
- 委員：評価をした結果は何らかの形で反映してもらいたい。その面では、A-2の方が俯瞰性もあるので、きちんとした評価をしたという見た目になると思う。
- 委員：ABC評価というのも手としてはあるかと思うが。
- 委員：事業として伸びしろがあるかどうかというところが評価のポイントになると思う。そのためには、現場の方の状況が分かる方が良い。
- 会長：A-2の方が、ダイジェスト感がある。ただ、評価表については保留とする。それでは、具体的に分野横断型プロジェクトの評価についてディスカッションを行う。
- 事務局：(鷗外没後 150 周年記念事業について説明)
- 副会長：三次元インターネット市民会議について参加者 274 人とあるが、これは区民の参加者が 274 人ということか。
- 事務局：そのとおりです。町会主催の事業であり、鷗外記念館が、文京区、津和野町、ベルリンの三か所にあるため、その三か所をインターネットでつなぎ、町会でイベントをやってもらい、そこに参加した人数になる。
- 副会長：274 人がインターネットに入ったわけではなく、町会のイベントに参加された方が 274 人になるということか。(そうだ。)会議はオープンになっていて、どこの人も見られるようになっていたのか。
- 事務局：どこでも見られるわけではない。
- 副会長：ちょっともったいない。
- 委員：主にイベント中心だと思うが、経済効果はあったのか。
- 事務局：プレミアムお買いもの件については、8000 万円規模の事業。発売されるとすぐに完売する。アンケートによると、一定の効果があったという回答。継続性はまだ立証できていない。広報グッズについては実行委員会に委託して作成。特に利益は出ていない。
- 事務局：お酒の成果については、初回 500 本限定、1つ 1500 円で販売。純粹に、目標額を売り切るということを目指しており、その部分では達成と考える。
- 委員：観光の視点からすると、補助金を事業費として出すことが多い。結果的に赤字を補てんしている。助成したお金を資本にして、経済活動の活性化等、その後の発展につながっていくのでは。
- 委員：お酒は完売後も引き続き販売は行っている。
- 事務局：補足になるがお酒について、継続販売はしているが区として補助金、開発経費は出していない。PR 面、販売の場の提供等の支援を行っている。
- 委員：講演会講座のところで、「アカデミア講座」の人数が 40 人とある。連続 6 回講座なので、240 人と書いた方がいいか。

○委員：延べの数字と混在している。

○委員：そもそもの理念や、分野別に何パーセントくらいの割合で取り扱ったのかを知りたい。

○事務局：当初パーセンテージは作らなかった。

○委員：作る時点でどんな柱があったのか。評価をするときに、理念と実情がどの程度差異があったのか。

○委員：明確に何パーセントかは回答しかねる。鷗外については、観光の視点を忘れず、学術的だけではない部分を顕彰する必要がある。文京区の特徴は、実行委員会や団体に委託するなど、手作りの事業が多いことである。

○委員：目的に対して、自己反省的なものがないと評価が難しい。文京区としてはどんな方向で、例えば文化発信するとどんな区民に対し心理的効果を得られるか。事業の意識が伝わってくる資料でないといけないので、工夫が必要ではないか。

○事務局：今回は参考として、区の事務事業評価を出した。区の目的を踏まえて評価してもらいたい。

○事務局：森鷗外事業が実施される前から、まちあるきの事業があった。もともとあった施策を文化施策としての森鷗外事業とどう絡めていくかが重要である。まちあるきについては、定員を上回る、好評な成果を収めた。

○委員：どうしても事業実績の羅列になってしまう。事務局側の意志が明確でないと、評価が難しい。

○会長：委員の立場はいわば査察である。(実績表には) いいことが書いてあるが、どこが問題だったのか、どこが一番アピールしたいのか、聞いてもらう。事務局側は、現場の方に来ていただいたりすべき。用意された資料の中に、出ていないものを探っていく。

○委員：今回のシミュレーションの例示。反省点はある。

○会長：分野型はいろんな広がりがあるため、分科会を行う際には、いろんな資料を持ち寄る必要がある。

○委員：これほどのことを文京区でやったのかということを感じている。他のことをやる際にも、ダイナミックに、エネルギーが大切。

○会長：森鷗外について評価例として挙げた。第3回のときにまた話したい。事務局の中でポイントを列挙して、その中で優先順位をつけておいてもらう。評価の欄をもう少し広くしてほしい。表のフォーマットは重要、検討をすべき。

○副会長：「進行管理表」とあるが「進捗状況評価表」の方がいいのでは。

○会長：要綱の中には、進行管理のチェックを行う、とある。しかし、タイトルとしてフィットしないため、進捗状況評価表に変えるべき。まず、宿題の整理をする必要がある。評価の基準、フォーマットは前もって決まっている。評価表をA-1にするかA-2にするかは、事務局と有識者で相談しつつ、第3回の時に皆さんに議論していただくということにできればと思う。評価の中身については、分科会で自由に話していただき、時間を区切っ

て3つ、5つ等ポイントを絞り、皆さんの中で意見を集約してもらいたい。ABCのような評価をつけた方が個人的にはいいと思う。ただ、評価基準は明記すべき。

○委員：評価に関しては、区でも苦労している。

○会長：指標を設けているのか。

○委員：設けている。(基本構想の数値目標について説明)

○委員：「数値目標を達成した」という評価もあるし、計画の整合性としての評価もあると思うが。

○会長：基本は、推進計画に即しているかどうかを見て進めるべき。ABC評価をするかどうかは、今後考えたい。

○委員：方向性はいいと思う。分科会では、事業担当者から事業内容と評価表の整合性をお話いただき、そのうえで議論できると助かる。

○会長：限られた時間の中で議論することを念頭に置き、進められればと思う。

○委員：大抵、評価をするときには評価の観点及び評価基準がある。それがあると、評価しやすいと思うが、現時点ではどこに視点を置いたらよいかかわからない。

○会長：評価の観点ははっきりしている。構想の枝の部分。

○委員：一個一個の事業が何に反映されているか、という視点で見ていただくしかないかと思う。

○会長：三回しかないため、最低限その項目について評価するということを決めるべき。今回枠組みがはっきりしたので、進め方については改善できると思う。

○会長：分科会の日取りについて、ご説明ください。

○事務局：(分科会の日取りについて、説明)

○会長：みなさんの希望をお伺いしたい。欠席の方には、事務局からお問い合わせいただきたい。

○副会長：分科会の進め方について。1つの項目につき、2、3分事務局からお話しをいただき、5分フリートーク、残りの3分で意見をまとめるという形でいかがでしょうか。

○会長：枠としてはこれでいきたい。ただ、今回は指定管理に関する概念の説明がなかったため、それぞれのところでご説明いただく必要がある。

○事務局：分科会の会場等は改めて通知する。

○会長：これで第一回目の会合を終了する。以上。